

(19) 日本国特許庁(JP)

再公表特許(A1)

(11) 国際公開番号

W02003/067967

発行日 平成17年6月2日(2005.6.2)

(43) 国際公開日 平成15年8月21日(2003.8.21)

(51) Int. Cl.⁷

A01K 67/00

F I

A01K 67/00

D

審査請求有 予備審査請求有 (全14頁)

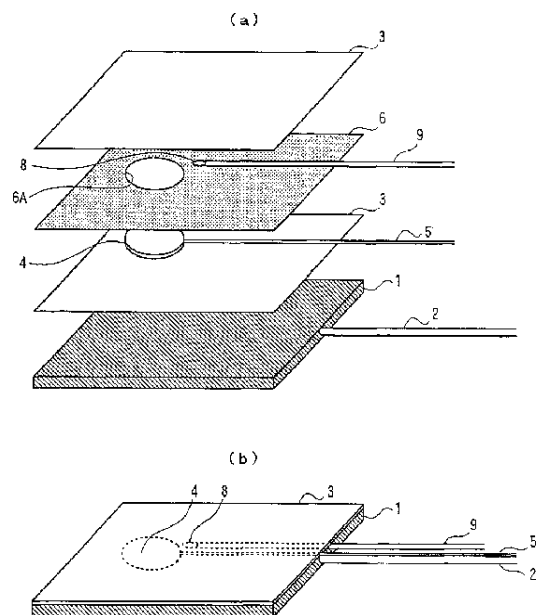
出願番号	特願2003-567168 (P2003-567168)	(71) 出願人	503360115
(21) 国際出願番号	PCT/JP2003/001109		独立行政法人科学技術振興機構
(22) 国際出願日	平成15年2月4日(2003.2.4)		埼玉県川口市本町4丁目1番8号
(31) 優先権主張番号	特願2002-36620 (P2002-36620)	(74) 代理人	100089635
(32) 優先日	平成14年2月14日(2002.2.14)		弁理士 清水 守
(33) 優先権主張国	日本国(JP)	(72) 発明者	佐藤 紳一
(81) 指定国	EP(AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HU, IE, IT, LU, MC, NL, PT, SE, SI, SK, TR), JP, US		日本国秋田県秋田市旭川南町18番地5号
		(72) 発明者	山田 勝也
			日本国秋田県秋田市太平八田字和岱13番地33号
		(72) 発明者	稲垣 暢也
			日本国秋田県秋田市千秋城下町5番地13号 城下町宿舍204

(54) 【発明の名称】 小動物用心拍・呼吸数検出機能付き体温保持装置及びそれを用いた小動物用心拍・呼吸数測定システム

(57) 【要約】

動物に痛みを与えることなく、簡便、かつ容易にセット可能な小動物用心拍・呼吸数検出機能付き体温保持装置及びそれを用いた小動物用心拍・呼吸数測定システムを提供する。

ヒーター電流供給線(2)が接続される平板状発熱装置(1)の上に、薄い板状の感圧センサー(圧電素子等)(4)を置き、薄い絶縁性シート(3)でサンドイッチ状に挟んだ。また、薄い絶縁性シート(3, 3)間には感圧センサー部に穴があいた金属板からなるスペーサー(6)を配置する。感圧センサー(4)の信号線(5)は制御装置に取り込まれ、ヒーター電流供給線(2)には電源が接続され、その電源は制御装置により制御可能である。したがって、小動物の体温を保持するとともに、感圧センサー(4)上に載置される小動物の心拍数と呼吸数とを感圧センサー(4)により検出して、制御装置に取り込み小動物の心拍数と呼吸数とを測定し、監視することができる。



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

(a) 平板状発熱装置と、
(b) 該平板状発熱装置上に配置される薄い絶縁性シート間に挟まれた感圧センサーと、
(c) 前記薄い絶縁性シート間に配置されるスペーサーと、
(d) 該スペーサー上に搭載される温度センサーとを具備することを特徴とする小動物用心拍・呼吸数検出機能付き体温保持装置。

【請求項 2】

請求項 1 記載の小動物用心拍・呼吸数検出機能付き体温保持装置において、前記スペーサーは、前記感圧センサーを配置する穴を有する金属板であることを特徴とする小動物用心拍・呼吸数検出機能付き体温保持装置。

10

【請求項 3】

(a) 平板状発熱装置と、
(b) 該平板状発熱装置上に配置される薄い絶縁性シート間に挟まれた感圧センサーと、
(c) 前記薄い絶縁性シート間に配置されるスペーサーと、
(d) 該スペーサー上に搭載される温度センサーと、
(e) 前記感圧センサー上に小動物の胸部を載置し、小動物の体温を維持するとともに前記感圧センサーからの情報を取得し、呼吸数と心拍数を得る制御装置と、
(f) 前記小動物の呼吸数と心拍数を監視する監視装置とを具備する小動物用心拍・呼吸数測定システム。

20

【請求項 4】

請求項 3 記載の小動物用心拍・呼吸数測定システムにおいて、前記スペーサーは、前記感圧センサーを配置する穴を有する金属板であることを特徴とする小動物用心拍・呼吸数測定システム。

【請求項 5】

請求項 4 記載の小動物用心拍・呼吸数測定システムにおいて、前記感圧センサーからの情報を処理し、小動物の呼吸数を計測するための低域のバンドパスフィルターと、小動物の心拍数を計測するための高域のバンドパスフィルターとを有することを特徴とする小動物用心拍・呼吸数測定システム。

【請求項 6】

請求項 4 記載の小動物用心拍・呼吸数測定システムにおいて、前記フィルター通過後の心拍および呼吸のアナログ信号波形を出力する端子を設置し、該端子からの出力に基づいてデジタル信号に変換し、心拍および呼吸数を計測することを特徴とする小動物用心拍・呼吸数測定システム。

30

【請求項 7】

請求項 4 記載の小動物用心拍・呼吸数測定システムにおいて、前記フィルター通過後の心拍および呼吸のアナログ信号波形を出力する端子を設置し、該端子からの出力に基づいて心拍および呼吸を観測する観測装置を具備することを特徴とする小動物用心拍・呼吸数測定システム。

【請求項 8】

請求項 6 記載の小動物用心拍・呼吸数測定システムにおいて、デジタル化された心拍出力パルスの数がノイズによるものを除き、1個で1心拍か2個で1心拍かのパターンを判断し計算するプログラムを格納した記憶媒体を具備するマイクロプロセッサを搭載することを特徴とする小動物用心拍・呼吸数測定システム。

40

【請求項 9】

請求項 6 記載の小動物用心拍・呼吸数測定システムにおいて、前記感圧センサー出力を高域通過フィルターを通して増幅した信号と、該信号を入力とする積分回路出力とを、差動増幅器の2入力とし、該差動増幅器の出力をアナログ信号出力波形とした高域のバンドパスフィルター回路を構成したことを特徴とする小動物用心拍・呼吸数測定システム。

【請求項 10】

50

請求項 6 記載の小動物用心拍・呼吸数測定システムにおいて、請求項 9 記載の高域のバンドパスフィルター回路の出力端子に、数ミリ秒程度の保持時間を持つ正の信号のピークホールド回路と負の信号のピークホールド回路とを差動増幅器の 2 入力に接続した回路を接続することにより、心拍数計測のためのデジタル信号を生成する回路を具備することを特徴とする小動物用心拍・呼吸数測定システム。

【請求項 11】

請求項 10 記載の小動物用心拍・呼吸数測定システムにおいて、前記ピークホールド回路は、ダイオードと抵抗を直列接続した整流回路の抵抗にコンデンサを並列接続してなることを特徴とする小動物用心拍・呼吸数測定システム。

【発明の詳細な説明】

技術分野

本発明は、小動物用心拍・呼吸数検出機能付き体温保持装置及びそれを用いた小動物用心拍・呼吸数測定システムに関するものである。

背景技術

本願発明者は既にマウスを主対象とした「小動物用体温保持装置」(特開 2002-51662)において、麻酔により体温が低下したマウスを正常な生理状態に保つための保温装置を提案しているが、この装置では、小動物の呼吸数と心拍数は計測の対象外となっていた。

ところが生理学実験において、麻酔をかけた動物の体温を維持するとともに、その動物の呼吸数と心拍数を監視することは、動物の生理的状态を把握する上で必要不可欠である。なお、人間が使用するカーペットにおいて、人間の体温や呼吸を計測して、その人間を快適な状態にする従来技術は見受けられるが、人間と比べてはるかに小さい小動物の生理的状态を計測するためには小動物特有の工夫が必要であり、簡便で確実な小動物用生理実験研究装置はこれまでに提供されていない。

発明の開示

上記したように、これまで、マウスなどのごく小型の小動物に適した心電図用電極や呼吸モニター装置はほとんど市販されていない。現状では研究者らの手作りによる心電図用電極等を実験において使用しているが、最適なものではないために動物に痛みを与えたり、また、その設置の取扱が極めて困難である場合も少なくない。そのため、小動物の呼吸数と心拍数が監視できるまでの準備時間も長くなるという問題もあった。

本発明は、上記状況に鑑み、動物に痛みを与えることなく、簡便、かつ容易にセット可能な小動物用心拍・呼吸数検出機能付き体温保持装置及びそれを用いた小動物用心拍・呼吸数測定システムを提供することを目的とする。

本発明は、上記目的を達成するために、

〔1〕小動物用心拍・呼吸数検出機能付き体温保持装置において、平板状発熱装置と、この平板状発熱装置上に配置される薄い絶縁性シート間に挟まれた感圧センサーと、前記薄い絶縁性シート間に配置されるスペーサーと、そのスペーサー上に搭載される温度センサーとを具備する。

〔2〕上記〔1〕記載の小動物用心拍・呼吸数検出機能付き体温保持装置において、前記スペーサーは、前記感圧センサーを配置する穴を有する金属板であることを特徴とする。

〔3〕小動物用心拍・呼吸数測定システムにおいて、平板状発熱装置と、この平板状発熱装置上に配置される薄い絶縁性シート間に挟まれた感圧センサーと、前記薄い絶縁性シート間に配置されるスペーサーと、そのスペーサー上に搭載される温度センサーと、前記感圧センサー上に小動物の胸部を載置し、小動物の体温を維持するとともに前記感圧センサーからの情報を取得し、呼吸数と心拍数を得る制御装置と、前記小動物の呼吸数と心拍数を監視する監視装置とを具備する。

〔4〕上記〔3〕記載の小動物用心拍・呼吸数測定システムにおいて、前記スペーサーは、前記感圧センサーを配置する穴を有する金属板であることを特徴とする小動物用心拍・呼吸数測定システム。

〔5〕上記〔4〕記載の小動物用心拍・呼吸数測定システムにおいて、前記感圧センサー

10

20

30

40

50

からの情報を処理し、小動物の呼吸数を計測するための低域のバンドパスフィルターと、小動物の心拍数を計測するための高域のバンドパスフィルターとを有することを特徴とする。

〔 6 〕 上記〔 4 〕記載の小動物用心拍・呼吸数測定システムにおいて、前記フィルター通過後の心拍および呼吸のアナログ信号波形を出力する端子を設置し、この端子からの出力に基づいてデジタル信号に変換し、心拍および呼吸数を計測することを特徴とする。

〔 7 〕 上記〔 4 〕記載の小動物用心拍・呼吸数測定システムにおいて、前記フィルター通過後の心拍および呼吸のアナログ信号波形を出力する端子を設置し、この端子からの出力に基づいて心拍および呼吸を観測する観測装置を具備することを特徴とする。

〔 8 〕 上記〔 6 〕記載の小動物用心拍・呼吸数測定システムにおいて、デジタル化された心拍出力パルス数がノイズによるものを除き 1 個で 1 心拍か 2 個で 1 心拍かのパターンを判断し計算するプログラムを格納した記憶媒体を具備するマイクロプロセッサを搭載することを特徴とする。 10

〔 9 〕 上記〔 6 〕記載の小動物用心拍・呼吸数測定システムにおいて、前記感圧センサー出力を高域通過フィルターを通して増幅した信号と、その信号を入力とする積分回路出力とを、差動増幅器の 2 入力とし、その差動増幅器の出力をアナログ信号出力波形とした高域のバンドパスフィルター回路を構成したことを特徴とする。

〔 10 〕 上記〔 6 〕記載の小動物用心拍・呼吸数測定システムにおいて、上記〔 9 〕記載の高域のバンドパスフィルター回路の出力端子に、数ミリ秒程度の保持時間を持つ正の信号のピークホールド回路と負の信号のピークホールド回路とを差動増幅器の 2 入力に接続した回路を接続することにより、心拍数計測のためのデジタル信号を生成する回路を具備することを特徴とする。 20

〔 11 〕 上記〔 10 〕記載の小動物用心拍・呼吸数測定システムにおいて、前記ピークホールド回路は、ダイオードと抵抗を直列接続した整流回路の抵抗にコンデンサを並列接続してなることを特徴とする。

このように、本発明は、小動物を体温保持用ヒーター上に置くととき小動物の胸部（心臓直下）が覆う部分のヒーター表面に、薄い平板型の感圧センサーを配置して、その感圧センサーに接する小動物の呼吸と心拍による振動（圧力変化）を検出し、呼吸数と心拍数を監視することができる。

すなわち、体温保持ヒーター表面に呼吸数と心拍数を検出する装置を、組込み一体型とし、小動物の体温を維持するとともに呼吸数と心拍数を監視することができる。 30

発明を実施するための最良の形態

以下、本発明の実施の形態について詳細に説明する。

第 1 図は本発明の実施例を示す小動物用心拍・呼吸数検出機能付き体温保持装置の構成図であり、第 1 図（ a ）はその小動物用心拍・呼吸数検出機能付き体温保持装置の分解斜視図、第 1 図（ b ）はその小動物用心拍・呼吸数検出機能付き体温保持装置の斜視図である。第 2 図はその小動物用心拍・呼吸数検出機能付き体温保持装置上にマウスを置いた状態を示す図、第 3 図はその小動物用心拍・呼吸数検出機能付き体温保持装置を用いた小動物の心拍・呼吸数測定システムの構成図である。

これらの図において、1 は平板状発熱装置、2 はヒーター電流供給線、3 は薄い絶縁性シート、4 は薄い板状の感圧センサー、5 は感圧センサー 4 の信号線、6 はスペーサー、6 A はスペーサー 6 に形成される、感圧センサー 4 を配置するための穴、7 はマウス、8 は温度センサー、9 はその温度センサー 8 の信号線、10 は制御装置、11 は入力インタフェース、12 は低域のバンドパスフィルター部（L B P F 部）、13 は高域のバンドパスフィルター部（H B P F 部）、14 は処理部、15 はプログラムを格納する記憶装置（メモリ：記憶媒体）、16, 17 は出力インタフェース、18 は電源、19 は観測装置、20 は小動物の心拍・呼吸数監視装置である。 40

そこで、第 1 図（ a ）に示すように、ヒーター電流供給線 2 が接続される平板状発熱装置 1 の上に薄い絶縁性シート 3, 3 などでサンドイッチ状に挟まれた薄い板状の感圧センサー 4（圧電素子等）を配置する。

スパーサー 6 には、感圧センサー 4 を配置するための穴 6 A が形成される。また、スパーサー 6 は温度分布の均等化と小動物による荷重の分散化を図るために金属板とすることが望ましい。

ここで、感圧センサー 4 の信号線 5 および温度センサー 8 の信号線 9 は制御装置 10 に接続されている。また、ヒーター電流供給線 2 は電源 18 に接続され、その電源 18 は制御装置 10 によって制御可能である。

そこで、感圧センサー 4 の出力は、小動物（例えば、第 2 図におけるマウス 7）の呼吸数と心拍数が重畳された電気信号であるため、これらを低域のバンドパスフィルター部（L B P F 部）12 にかけることにより、小動物の呼吸に対応した波形とし、一方、高域のバンドパスフィルター部（H B P F 部）13 にかけることにより、小動物の心拍に対応した波形とする。つまり、感圧センサー 4 の出力である呼吸数と心拍数が重畳された電気信号を、分離・整形して表示するための処理を行う。そして、それぞれ整形された信号を外部の観測装置（例えば、オシロスコープ）19 で観測する。さらに、周波数を計測して L E D 表示として小動物の呼吸数と心拍数を監視装置 20 にて監視することができる。なお、小動物の体温は温度センサー 8 によって出力され、制御装置 10 によって制御可能である。以下、本発明の心拍信号の検出手段について詳細に説明する。

第 4 図は本発明の実施例を示す小動物用心拍・呼吸数検出機能付き体温保持装置において、心拍信号を検出するための回路例を示す図、第 5 図はその小動物用心拍・呼吸数検出機能付き体温保持装置において、ピークホールド回路を具体的に実現する簡易な回路例を示す心拍信号整形回路の回路図である。

これらの図において、101 は高域のバンドパスフィルター回路（H B P F）であり、H P F（高域フィルター）111、増幅器 112、積分回路 113、差動増幅器 114 からなる。なお、115 は差動増幅器 114 の出力信号線である。

また、120 は心拍信号整形回路、121 は正の信号のピークホールド回路であり、この正の信号のピークホールド回路 121 は、ダイオード（順方向接続）122 と、このダイオード 122 の出力側と接地との間に並列される抵抗 123 とコンデンサ 124 からなる。125 は負の信号のピークホールド回路であり、この負の信号のピークホールド回路 125 は、ダイオード 126（逆方向接続）と、このダイオード 126 の出力側と接地との間に並列される抵抗 127 とコンデンサ 128 からなる。131 は正の信号のピークホールド回路 121 の出力信号と負の信号のピークホールド回路 125 の出力信号とを入力する差動増幅器、132 は差動増幅器 131 に接続されるコンパレータ、133 はそのコンパレータ 132 の出力信号線であり、デジタル化された心拍信号が出力される。

第 6 図は本発明の実施例を示す小動物用心拍・呼吸数検出機能付き体温保持装置におけるマウスの心拍信号出力を示す図、第 7 図は第 6 図の時間軸を拡大した小動物用心拍・呼吸数検出機能付き体温保持装置におけるマウスの心拍信号出力を示す図であり、第 6 図及び第 7 図は性能の低い高域フィルターを使用した場合のマウスの心拍信号出力を示し、ノイズおよび呼吸の信号成分の分離が不十分である。

第 8 図は本発明の実施例を示す低域バンドパスフィルター出力（マウスの呼吸）を示す図であり、この図において、周期約 350 ミリ秒の大きな信号が観察されるが、これはマウスの呼吸による信号を示すものであり、心拍による信号成分は完全に分離されている。

第 9 図は本発明の実施例を示す高域バンドパスフィルター出力（マウスの心拍）を示す図であり、この図において、周期約 100 ミリ秒の大きな振幅の信号が観察されるが、これはマウスの心臓の拍動による信号を示すものであり、基線付近の細かい振幅の小さいノイズとは目視によっても明確に区別することができる。また、第 7 図に示したものと明確な差がある。この信号が心拍による信号であることは心電図（E C G）との対応を見ることによって確認している。このように第 4 図に示す本発明の高域バンドパスフィルター回路により S N 比の大きいマウスの心拍のアナログ信号出力を得ることができる。

第 10 図は、本発明の実施例を示す高域バンドパスフィルター出力（マウスの心拍）のうち、心拍出力パルス 2 個につき 1 心拍である例を示した図であり、この図において、周期約 100 ミリ秒の間に 2 つの大きな振幅の信号が観察されるが、マウスの心臓の拍動は感

10

20

30

40

50

圧センサーでは、小動物の生理的状态や個体差によって、1心拍あたり1回または2回の大きな振動を検出する。その振動はそれぞれ心拍出力パルス1個あるいは2個に変換されるが、この図では、心拍出力パルス2個につき1心拍である例を示した。

これらの第6図～第7図においては、横軸は時間(ms)、縦軸は電圧(mV)を、第8図～第10図においては、横軸は時間(ms)、縦軸は電圧(V)をそれぞれ示している。

上述したように、本発明では感圧センサー4の出力を低域のバンドパスフィルター部(LBPF部)12と高域のバンドパスフィルター部(HBPF部)13にかけることにより、呼吸数と心拍数が重畳された電気信号を、分離・整形して表示するための処理を行うが、心拍信号の整形において性能の低い高域フィルターを使用すると、第6図や第7図のようなSN比の小さい波形となるので、性能の高い高域のバンドパスフィルター部を使用しなければならない。本発明においては、第4図に示した高域のバンドパスフィルター部(HBPF部)101のような、安価に製作可能な独自に開発した回路構成の高域のバンドパスのフィルターを使用した結果、第8図のようなSN比の大きい心拍信号のアナログ出力波形を得ることができた。積分回路113は最も簡単な抵抗とコンデンサの直列回路でもよい。そして、それぞれ整形された信号を外部のオシロスコープ等の観測装置19で観測する。さらに、処理部14内の心拍信号整形回路120において、数ミリ秒程度の保持時間を持つ正の信号のピークホールド回路121および負の信号のピークホールド回路125を差動増幅器131の2入力に接続した回路により、心拍信号の数ミリ秒程度の限られた時間内に正負に大きく振動する成分のみを抽出することができる。この回路を加えることにより、ノイズレベルが高い場合でもさらに容易に心拍信号を検出することが可能となる。また、これらのピークホールド回路121, 125は、第5図に示した回路のように、ダイオード122, 126と抵抗とを直列接続した整流回路の抵抗123, 127にコンデンサ124, 128を並列接続した簡単な回路でも代用が可能である。これらの回路でデジタル化され出力される心拍出力パルスを、さらに処理部14内のマイクロプロセッサによって、その心拍出力パルスの数のうちノイズによるものを除き、第9図に示すような、1個で1心拍であるか、第10図に示すような、2個で1心拍かのパターンを判断することができる。その計算した結果をLED表示として小動物の呼吸数と心拍数を監視装置20にて監視することができる。

以上、詳細に説明したように、本発明によれば、小動物用心拍・呼吸数検出機能付き体温保持装置の上に小動物を置くだけで、小動物の体温維持のみならずノイズや小動物の心拍信号のパターン変化に左右されずに呼吸数や心拍数を監視することができる。これは、従来必要であった心電図用電極の装着と配線、そして装置の調整の手間と時間を皆無にすることができる画期的な装置である。呼吸数の測定装置についても同様であり、外部装置の削減が可能となるため、実験室スペースを低減することができ、その分、余裕拡大につながる。すなわち、本発明の装置を導入すれば、実験準備の手間と時間が大幅に短縮され、実験スペースが確保されるという利点がある。さらに、高価な呼吸モニターや心電計を別途購入する必要もなくなるので経済的にも効果が大きい。

更に、高度な利用方法として、小動物の心臓の拍動および肺の動きの大きさ(強さ)やパターンを観測することができる出力インターフェースを備えることにより、心電図、血圧による従来の方法では知ることのできなかつた心臓の生理的状态を示す情報を分析することや心臓や肺の動きの状態を分析することが可能となる。したがって、本発明により医学・療養の研究分野に新たな発展をもたらすことができる。

なお、本発明は上記実施例に限定されるものではなく、本発明の趣旨に基づいて種々の変形が可能であり、これらを本発明の範囲から排除するものではない。

産業上の利用可能性

本発明の小動物用心拍・呼吸数検出機能付き体温保持装置及びそれを用いた小動物用心拍・呼吸数測定システムは、小動物用心拍・呼吸数検出機能付き体温保持装置の上に小動物を置くだけで、小動物の体温維持のみならず呼吸数や心拍数を監視することができるため、小動物の生理学上必要な基礎となるデータを無侵襲で簡便、かつ確実に計測するための

研究実験装置として好適である。

【図面の簡単な説明】

第1図は、本発明の実施例を示す小動物用心拍・呼吸数検出機能付き体温保持装置の構成図である。

第2図は、本発明の実施例を示す小動物用心拍・呼吸数検出機能付き体温保持装置上にマウスを置いた状態を示す図である。

第3図は、本発明の実施例を示す小動物用心拍・呼吸数検出機能付き体温保持装置を用いた小動物の心拍・呼吸数測定システムの構成図である。

第4図は、本発明の実施例を示す小動物用心拍・呼吸数検出機能付き体温保持装置において、心拍信号を検出するための回路例を示す図である。

第5図は、本発明の実施例を示す小動物用心拍・呼吸数検出機能付き体温保持装置において、ピークホールド回路を具体的に実現する簡易な回路例を示す心拍信号整形回路の回路図である。

第6図は、本発明の実施例を示す小動物用心拍・呼吸数検出機能付き体温保持装置における感圧センサーによるマウスの拍動の出力を示す図であり、性能の低い高域フィルターを使用した場合のマウスの心拍信号出力を示す図である。

第7図は、第6図の時間軸を拡大した小動物用心拍・呼吸数検出機能付き体温保持装置における感圧センサーによるマウスの拍動の出力を示す図であり、性能の低い高域フィルターを使用した場合のマウスの心拍信号出力を示す図である。

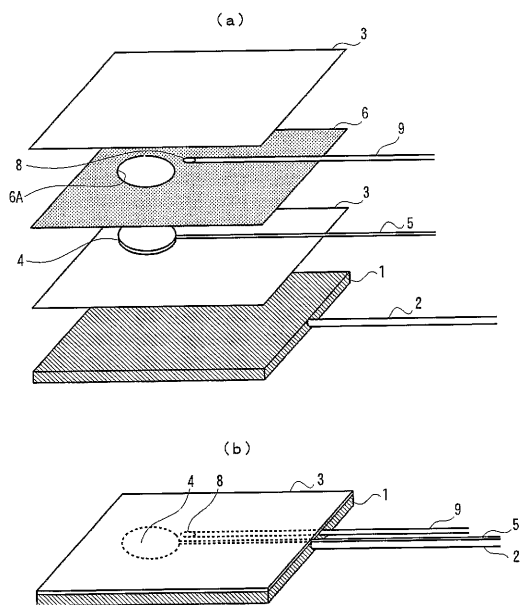
第8図は、本発明の実施例を示す低域バンドパスフィルター出力（マウスの呼吸）を示す図である。

第9図は、本発明の実施例を示す高域バンドパスフィルター出力（マウスの心拍）を示す図（その1）である。

第10図は、本発明の実施例を示す高域バンドパスフィルター出力（マウスの心拍）を示す図（その2）である。

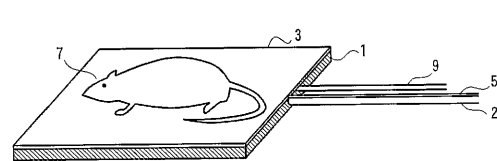
【図1】

第1図



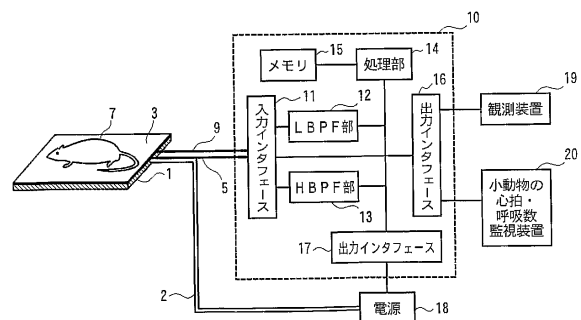
【図2】

第2図



【図3】

第3図

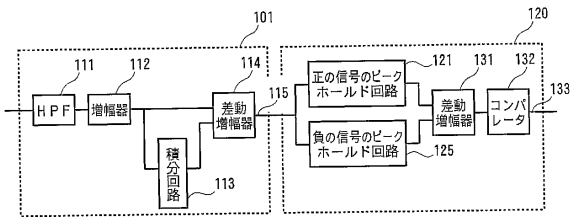


10

20

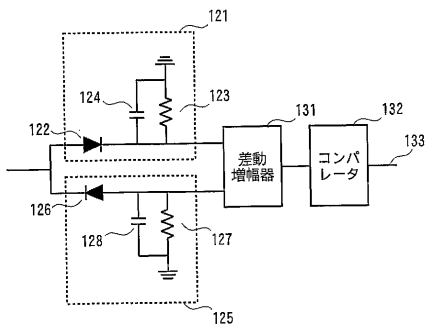
【図4】

第4図



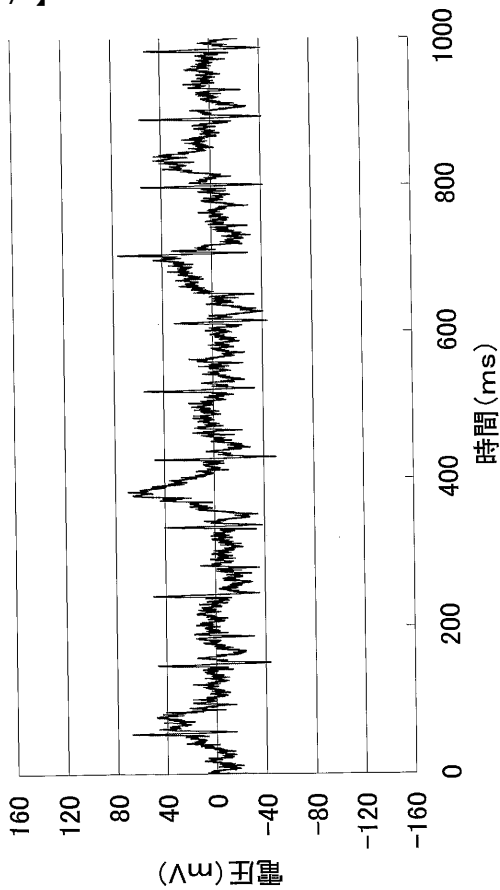
【図5】

第5図



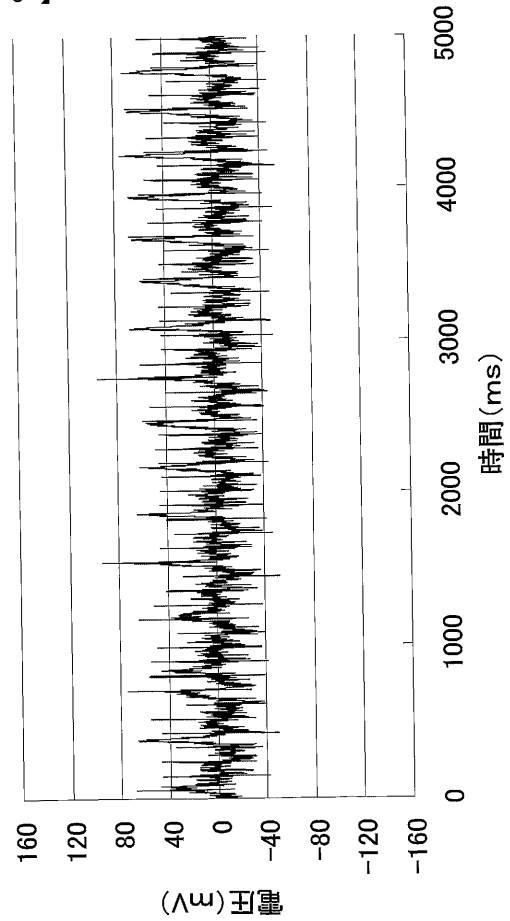
【図7】

第7図



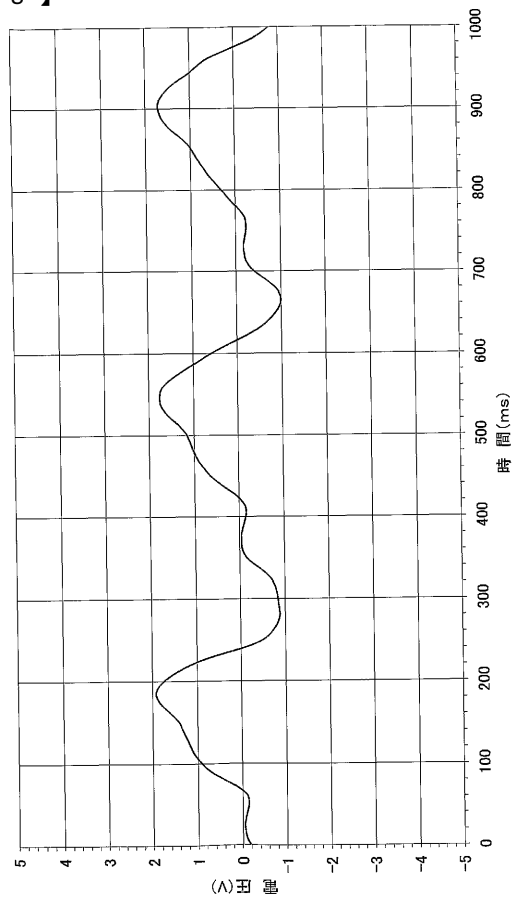
【図6】

第6図



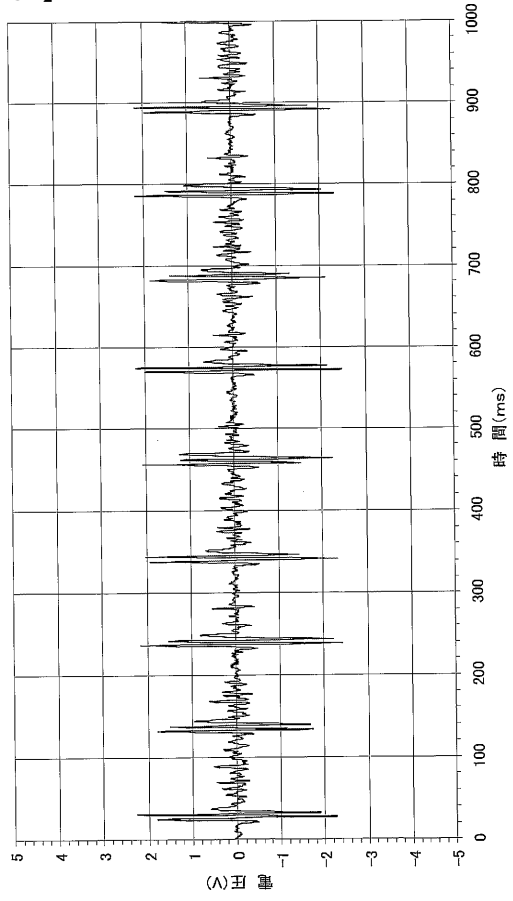
【図8】

第8図



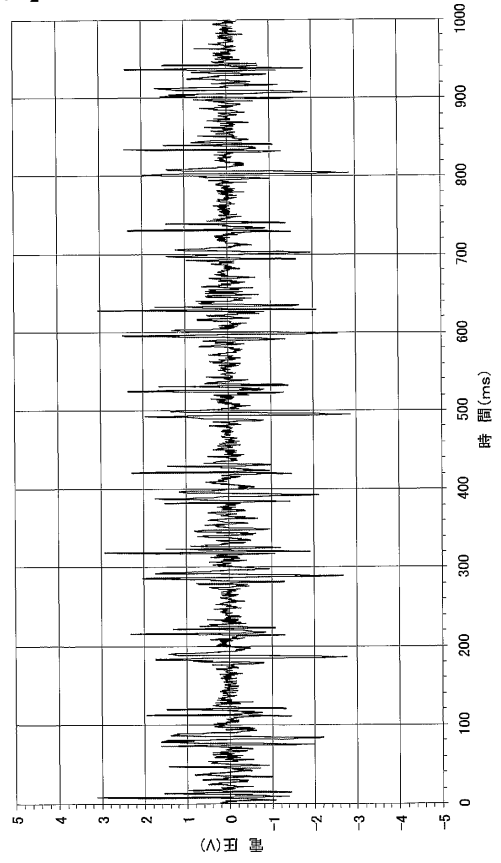
【 図 9 】

第 9 図



【 図 10 】

第 10 図



【 国際調査報告 】

INTERNATIONAL SEARCH REPORT		International application No. PCT/JP03/01109
A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER Int.Cl. ⁷ A01K1/015, A01K13/00, A61B5/02, A61B5/08, A61D1/00 According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC		
B. FIELDS SEARCHED Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols) Int.Cl. ⁷ A01K1/015, A01K13/00, A01K29/00, A61B5/02, A01K67/00, A61B5/08, A61D1/00 Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched Jitsuyo Shinan Koho 1922-1996 Jitsuyo Shinan Toroku Koho 1996-2003 Kokai Jitsuyo Shinan Koho 1971-2003 Toroku Jitsuyo Shinan Koho 1994-2003 Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)		
C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT		
Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
P,A	JP 2002-51662 A (Japan Science and Technology Corp.), 19 February, 2002 (19.02.02), (Family: none)	1-11
P,A	JP 2002-250532 A (Matsushita Electric Works, Ltd.), 06 September, 2002 (06.09.02), (Family: none)	1-11
A	JP 11-18602 A (Nippon Dobutsu Yakuhin Kabushiki Kaisha), 26 January, 1999 (26.01.99), (Family: none)	1-11
<input checked="" type="checkbox"/> Further documents are listed in the continuation of Box C. <input type="checkbox"/> See patent family annex.		
* Special categories of cited documents: "A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance "E" earlier document but published on or after the international filing date "L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified) "O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means "P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed		"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention "X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone "Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art "&" document member of the same patent family
Date of the actual completion of the international search 04 March, 2003 (04.03.03)		Date of mailing of the international search report 18 March, 2003 (18.03.03)
Name and mailing address of the ISA/ Japanese Patent Office		Authorized officer
Facsimile No.		Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP03/01109

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT		
Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	JP 59-122949 A (Grelan Phamaceutical Co., Ltd.), 16 July, 1984 (16.07.84), (Family: none)	1-11
A	JP 10-108578 A (Shionogi & Co., Ltd.), 28 April, 1998 (28.04.98), (Family: none)	1-11

国際調査報告		国際出願番号 PCT/JP03/01109												
<p>A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (IPC)) Int. Cl.⁷ A01K 1/015, A01K 13/00, A61B 5/02, A61B 5/08, A61D 1/00</p>														
<p>B. 調査を行った分野 調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (IPC)) Int. Cl.⁷ A01K 1/015, A01K 13/00, A01K 29/00, A61B 5/02, A01K 67/00, A61B 5/08, A61D 1/00</p>														
<p>最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの 日本国実用新案公報 1922-1996年 日本国公開実用新案公報 1971-2003年 日本国実用新案登録公報 1996-2003年 日本国登録実用新案公報 1994-2003年</p>														
<p>国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)</p>														
<p>C. 関連すると認められる文献</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">引用文献の カテゴリー*</th> <th style="width: 70%;">引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示</th> <th style="width: 20%;">関連する 請求の範囲の番号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">PA</td> <td>JP 2002-51662 A(科学技術振興事業団)2002.02.19 (ファミリーなし)</td> <td style="text-align: center;">1-11</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">PA</td> <td>JP 2002-250532 A(松下電工株式会社)2002.09.06 (ファミリーなし)</td> <td style="text-align: center;">1-11</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td>JP 11-18602 A(日本動物薬品株式会社)1999.01.26 (ファミリーなし)</td> <td style="text-align: center;">1-11</td> </tr> </tbody> </table>			引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号	PA	JP 2002-51662 A(科学技術振興事業団)2002.02.19 (ファミリーなし)	1-11	PA	JP 2002-250532 A(松下電工株式会社)2002.09.06 (ファミリーなし)	1-11	A	JP 11-18602 A(日本動物薬品株式会社)1999.01.26 (ファミリーなし)	1-11
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号												
PA	JP 2002-51662 A(科学技術振興事業団)2002.02.19 (ファミリーなし)	1-11												
PA	JP 2002-250532 A(松下電工株式会社)2002.09.06 (ファミリーなし)	1-11												
A	JP 11-18602 A(日本動物薬品株式会社)1999.01.26 (ファミリーなし)	1-11												
<p><input checked="" type="checkbox"/> C欄の続きにも文献が列挙されている。 <input type="checkbox"/> パテントファミリーに関する別紙を参照。</p>														
<p>* 引用文献のカテゴリー 「A」 特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの 「E」 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの 「L」 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す) 「O」 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献 「P」 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願 の日の後に公表された文献 「T」 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの 「X」 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの 「Y」 特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの 「&」 同一パテントファミリー文献</p>														
<p>国際調査を完了した日 04.03.03</p>		<p>国際調査報告の発送日 18.03.03</p>												
<p>国際調査機関の名称及びあて先 日本国特許庁 (ISA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号</p>		<p>特許庁審査官 (権限のある職員)  2B 9123 長井 啓子 電話番号 03-3581-1101 内線 3237</p>												

国際調査報告

国際出願番号 PCT/JPO3/01109

C (続き) . 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
A	JP 59-122949 A(グレラン製菓株式会社)1984.07.16 (ファミリーなし)	1-11
A	JP 10-108578 A(塩野義製薬株式会社)1998.04.28 (ファミリーなし)	1-11

(注) この公表は、国際事務局(WIPO)により国際公開された公報を基に作成したものである。なおこの公表に係る日本語特許出願(日本語実用新案登録出願)の国際公開の効果は、特許法第184条の10第1項(実用新案法第48条の13第2項)により生ずるものであり、本掲載とは関係ありません。